東京桑野会七十期会近況報告

丹治俊彦（七十期）

我々七十期の入学時の人数は三三〇名（推定）で、卒業時は三一七名である。卒業後の同期会開催については、各クラス（六クラス）別の開催は行われていたもようであるが、七十期全体の会合は開催された形跡は見当たらない。

東京桑野会総会には、毎年数名の同期生が出席しているが、平成十六年の定期総会時に、橋本高行君（元皇宮警察学校長・警視長）から、安積桑野会会員名簿（発行時期未詳）によると首都圏（東京・埼玉・千葉・神奈川）には五十一名の同期生が居住しているので、七十期会を組織しようではないかとの提案があり、全員の賛同を得て同期生に呼び掛けたところ、半数以上の同期生から参加の意思表示が寄せられたので、平成十七年十月に第一回の同期会総会の開催に至った。

役員には、発足当初の会長は矢吹晋君（横浜市立大学名誉教授）が就任し、現会長は古屋英敏君（元日本ゼオン専務）、副会長石井敬治君（ＡＰＳ代表）、渡辺哲弥君（医師・トワーム小江戸病院々長）、幹事長橋本高行君である。爾来、毎年十月に定期総会を開催しており、平成二十五年十二月には、橋本高行君の瑞宝双光章叙勲を祝う会を開催した。

平成二十六年度には浅里公三君（音楽評論家）が加入すると共に、郡山在住の椎野光喜君（椎野代表）と渡辺隆弘君（元郡山市議会議長）が二年連続で出席し、地元郡山の情報を提供してくれている。今年度（平成二十八年十月）の総会には、岡山在住の熊田誠君（山口大学名誉教授）の出席が予定されている。

定期総会では、出席者全員のショートスピーチが恒例となっているが、今迄のスピーチのうちで小生が最も衝撃を受けて印象に残っていることは、柔道部（当時は柔道班と称していた）で一緒に活躍した並木武和君（旧姓渡部・元警視庁機動隊員）のスピーチである。その内容は、当時のテレビ放映で御覧になったことと思いますが、昭和四十七年二月に連合赤軍が人質をとって立てこもった「あさま山荘事件」である。当時警視庁の機動隊に所属していた同君は、特殊車両で現場に出動している。スピーチ内容の詳細については省略するが、想像を絶する体験をしている。

さて、先輩・後輩の期にも該当するかも知れないが、七十期には恩師の子弟が二人いる。その一人は椎野光喜の父である椎野喜勇先生（重箱・地理）と牧田俊久君（故人）の父牧田治久先生（海坊主・国語）である。我々悪童は試験時には「問題の内容は知っているだろう」と言って苛めたものである。

さらに、恩師に纏（まつ）わることであるが、小生の長兄丹治茂志（元郡山市議会議員）は四十六期で、柳沼弥重先生（野獣・生物）と高橋健郎先生（英語）と同期である。兄はノモンハン事件に参戦し、交戦中に重傷を負って帰国（時期未詳）した。その後は保土ヶ谷化学郡山工場の配属将校（陸軍中尉）となり、昭和二十年四月十二日の郡山空襲時には安中生を含む学徒動員の生徒を誘導して阿武隈川に避難途中、投下された爆弾の破片により負傷している。

また、時期未詳であるが、小生郡山へ帰省して東京への帰途、郡山駅で高橋先生と偶然お会いしたことがある。同期である高瀬礼二氏（元東京高検検事長）の叙勲祝賀会に出席のため、同期生数名と一緒であったが、終点の上野駅まで、先生の同期生のことや一橋大学在学中のことなど拝聴したことが懐かしく思い出される。

最後に今年の東京桑野会定期総会は六月三日に開催されたが、七十期からは八名出席し、期別では最多数であった。懇親会は立食パーティ式であり、来賓・高齢者用のテーブル席が数席準備されているが、我々は利用できない。しかし、今年度は六十八期の先輩が着席していたことから、いよいよ我々も着席出来るものと、二年後を楽しみにしている次第である。